



プロの技に感激!!

～竹原っこ夢プロジェクト in 中通小学校～

1月27日、中通小学校でふるさと納税を活用した「竹原っこ夢プロジェクト」が行われ、5・6年生が老舗「末広堂」の和菓子職人廣岡さんから、和菓子づくりを教してもらいました。

「職人さんの手さばきがすばらしく、見ていて感動しました。」(6年 國川郁穂さん)
 「和菓子作りの大変さがとてもよく分かりました。貴重な体験をありがとうございました。」(6年 森川昇太くん)
 「和菓子は日本の大切な文化だと実感しました。」(6年 市原洋子さん)
 「簡単に作り上げてしまう廣岡さんを見て、すごいなと思いました。」(5年 向井和花さん)

これは、体験後に児童が末広堂の廣岡親子さん、晃三さんに宛てた手紙です。プロの技術を目の当たりにした児童は、職業として技を専門的に磨き、突き詰めていく道に関心をもった様子。

体験前には、廣岡さんに聞いてみたいこととして、「たくさんのお店がある中で、末広堂さんは、どんなお店の工夫をしていますか。」「どんなことに気をつけて、長い間お店を続けてこられたのですか。」といった、経営についての質問が児童から出ました。

子どもたちが働くということ、そして生活すること意識し始めていくことが伝わります。

今後は、末広堂と協力して、オリジナルの「中通小学校銘菓」を作り、地域に広げる活動にも取り組む予定です。「自分たちで生み出したお菓子を、地域の人たちに食べてもらいたい」という思いを現実のものにしていくため、中通小学校の取組みはまだまだ続きます。



歴史は残すだけでなく学ぶことが大切と、住民による講師が地域資料を使い歴史講座を開講しました

わがまちの誇りを 伝え残したい 田万里町が郷土資料を整備

市内初の住民自治組織として発足した田万里町協働のまちづくり協議会が、昨年11月、冊子「ふるさと文化財・遺跡を訪ねて」を発刊。郷土資料を整備し、町民にまちの宝を伝えています。

設立から3年、地元歴史文化の保全活用を一步步着実に進めています。

まちの様子がどんどん変わり、田万里町の昔を物語る大切な資料が、急速に失われていく。そんな危機感から、郷土資料の整備が急がれました。

これまでに、地元有志で活動してきた歴史教室の調査・研究資料をまとめたほか、個人では保管できず処分されてしまう民具などを引き受け、保管していく取組みも進めています。

郷土資料の整理にあたった協議会事務局の小林昭夫さんは、「宿場町で栄えたこのまちには古代歴史ロマンがある。今後は、収集した資料をもとに、標示板や休憩所を整備し、多くの方を田万里町へ迎え入れたい」と、地元の歴史文化を活用したまちづくりに意欲をのぞかせました。



鬼は～外！福は～内！

1月28日、福祉会館でミルクハウスを利用する親子が豆まきを行いました。怖い鬼が登場すると、泣いて豆を投げられなくなった子どもに代わって、お母さんが豆を投げる姿も。「福」が家に舞い込むと良いですね。



地域一体となって文化財をまもる

1月30日、町並み保存地区で文化財防火訓練が行われました。いざという時、郷土の大切な文化財が守れるようにと、地域の人たちが訓練に参加。町並み保存地区にある消火栓などの使用方法を確認しました。



「ことばの輝き」 受賞者発表

2月4日、広島県教育委員会の「『ことばの輝き』優秀作品コンクール」の受賞作品が発表され、中通小学校2年生の小林稜佳さんが最優秀賞を受賞。小林さんは、ケナフの生長について書いた説明的作文が評価されました。



出張！なんでも鑑定団 in 竹原

2月21日、市民館で「出張！なんでも鑑定団」の収録が行われました。依頼人のお宝にまつわるエピソードで会場が盛り上がり、いよいよ鑑定に。結果に泣いた人もいれば笑った人もいましたが、みなさん納得の表情でした。



赤色エレジーから小梅ちゃんまで

2月13・14日、たけはら美術館で画家・イラストレーターとして活躍する林静一さんのトークショーが開かれ、多くのファンが林さんの優美で多彩な世界を楽しみました。

技法や制作秘話、さらには女性のファッションや日本人の個性まで、様々な話をしてくれた林さん。広く深い関心や造詣が、創作に生かされているようです。

漫画「赤色エレジー」や、ロッテキャンディのイラスト「小梅ちゃん」など、多くの人に愛される作品が展示されています。みなさんもぜひ足を運んでみてください。



先輩から学ぶ「ことばの力」

2月16日、東野小学校で、4～6年生の児童と地域住民を対象に、広島ホームテレビアナウンサーの伊藤みのりさんによる講演会が開かれました。東野小学校を卒業している伊藤さんは、児童にとっては先輩に当たります。伊藤さんは講演の中で、小学生の頃から抱いてきた夢を実現させた喜びや、仕事のやりがいなどを話しました。

また、「どうすれば上手く話せますか？」という児童の質問に、「本を読んで、何度も文章を書くことで、話す力がつくんよ。」と答えてくれました。伝えたいことをしっかり伝えられる伊藤さんの姿は、児童の目にどのように映ったのでしょうか。